

豊かな実りは自然の土壌から



アープ・トーマス・オルガ菌と共に土づくりから

土づくりは、作物を健康に育てる基本です。

この基本を大切に当社は自然環境農法を推進致しております

果樹類の「紋羽病」改善方法

梨・りんご・桃など果樹類の難病とされる、白・紫紋羽病の紋羽菌は土中深く約60cm位に生存していると言われ、その対策には四苦八苦しているのが現状と思われます。そこで、環境にやさしく農薬を使わない防除法として、微生物を使用する試みが注目されて来ました。

当社の有効微生物群（アープ・トーマス・オルガ菌）は、このような症状に驚く程の抑制効果が、各地の使用から報告がなされております。

これは、当菌種が嫌気性の比率が多く配合され、深層部までの浸入を可能にする事、更に土壌形態（団粒構造化）を改良し細根が張り易く、樹勢回復が図られるからです。

【施工方法①】重症の場合

*収穫後から2月末までに、1本当たりに対し。

}	トーマス菌分解堆肥（源肥）・・・0.5袋（15kg入り）	}
	ミネラルこんぶ・・・・・・・・・・0.5袋（15kg入り）	
	トーマスくんと宝水1～2割を適量（50～80割）の水に希釈散布	

上記を半径3m四方に散布し、出来れば浅耕起して乾燥防止策を講じると良い。

【施工方法②】中初期的な場合

*施工方法①の半分～2/3の量を目安に施工して下さい。

【施工方法③】多少でも圃場内に症状が見られたら、又、通常使用時に。

全体の予防を行うと良いが、通常の状態でも有効菌を増やす事は、土壌中の未分解物を分解し浄化する事により雑菌の繁殖を抑制、更に、土壌形態（団粒構造化）を形成して根張りを良くし樹勢回復が図られますし、農薬の軽減、品質の向上（芯腐れ・みつ症等の軽減）と増収が期待できますから、通常から使用をお奨め致します。

2～3年後の通常の使用方法（10a当り）

品名 \ 時期	収穫後のお礼肥時	開花時前	果実の形成から肥大期
トーマスくん	30～40	20～30	20～30
宝水	30～40	20～30	20～30
散布方法	混合して全面に散布	葉面から散布	葉面から散布

[堆肥]は炭素率（別紙「トーマス・オルガ菌で良質な土壌を造る為に」参照）が重要ですからバランス良く配合して施す事をお勧め致します。